

バルーンアート教室

12月18日(日)子ども育成事業として、昨年に引き続き『バルーンアート教室』を行いました。講師の先生の指導のもとクリスマスリース・ロケット・剣など様々な形に変わって行くバルーンに子供たちだけでなく、お父さん・お母さんも大感激!!自分で作ったバルーン作品に加え、館長より一人一人の名前が入ったトントウのプレゼント、そしてクリスマスプレゼントを手にして大満足の日でした。



【これからの主な予定】

1月	4日	水	新年 仕事始め
	6日	金	市報・館報配布(1月号)
	8日	日	山元地区新春懇話会(式典のみ)
	21日	土	出前スポーツ教室(カローリング)
	21日	土	紫陽花のミニリースづくり
	28日	土	バランスボール
2月	1日	水	市報・館報配布(2月号)
	10日	金	会長会会議
	18日	土	出前スポーツ教室(シャフルボード)
	25日	土	ピラティス
	26日	日	MY健康塾

※かみかみ・百歳体操は1月11日より毎週水曜日開催致します。

【山元診療所開設日カレンダー】

月	開設日・曜日				
1	6 金	10 火	17 火	24 火	31 火
2	7 火	14 火	21 火	28 火	

やまびこ



山元地区の皆様には健やかに新年をお迎えいただいたことと心からお慶び申し上げます。

昨年も新型コロナウイルスの影響により、当地区を代表する数々の事業が中止となりました。しかしながら、感染防止対策を充分に行い、皆様のご協力をたくさんいただき、多くの事業を実施させていただきましたことに心より感謝申し上げます。

2023年も地区の皆様方が『元気で・楽しく・生き活きと』過ごせる事業と一緒に作り上げていきたいと考えております。すべての事業が盛大に、また、山元地区が『元気』になりますよう、変わらぬご支援とご協力を賜ります様宜しくお願い申し上げます。

今年も皆様にとって健康で飛躍の年になりますよう、

心よりお祈り申し上げます

令和5年1月

山元地区公民館運営協議会会長

山元地区公民館館長

山元地区公民館・山元支所

小笠原 岩 雄

役 職 員 一 同



除雪安全祈願祭・講習会

山形県からの活動助成金と地区の皆様から歩道除雪協力費をいただき、主に国道348号の歩道及び沿線の生活道路の除雪に当るマイロード除雪隊が12月11日に始動しました。同日安全祈願祭と操作講習会が実施され、オペレーターとして14名の地区有志の皆さんから無償ボランティアとしてご協力いただいております。尚、歩道除雪協力費はオペレーターの傷害保険と燃料代に大部分の金額が支出されています。今冬も昨年同様に大雪が予想されます。オペレーターの皆さん、地区協力者の皆さん事故のない様ご協力下さいます様よろしくお願いいたします。



正月飾りづくり

はなはな倶楽部代表の吉田和子さんを講師に迎えて12月3日と9日それぞれに「大王松」を使った正月飾りをつくりました。30センチ以上ある大王松に紅白の藁細工と椿とオンジウムの造花に松ぼっくり。金・銀・赤色の水引、リボンなどの飾りをワイヤーやグルーガンで取り付けて出来上がりです。水引やリボンの色合いなどで個性的な作品が完成しました。お正月には華やかに玄関の中や外を飾ってくれる事と思います。



郷土食「ごんぱ餅」

やまびこ村ごんぱ餅保存会による「ごんぱ餅」の製造が今季も12月より始動致しました。ごんぱ餅は地区内に自生するオヤマボクチ（通称ごんぱ）の葉から取れる綿毛を餅に練り込んだもの。かつては、くず米に混ぜてあんこを挟んであんぴん餅にして食べたと言います。

保存会の6名の皆様が、ごんぱ餅・きび餅・みそ餅・五穀餅詰め合せの4種類の餅を1シーズンに3,000バック程製造しており、地区内の取り扱所3か所とJA・直売所など10店舗程で販売しております。菅地区の平吹巖代表は「こしがあり、砂糖醤油や納豆、あんこと絡めるなどして美味しく食べてもらえるとうれしい。」と話して下さいました。地元の伝統食として、これからもずっと継承していただきたいものです。



保存会の皆さん

= 不便益ってなに? =

不便で良かったなと思うことが時々あります。便利とは、手間がかからず頭を使わなくても良い事だとします。そうすると、不便で良かった事や不便じゃなくてはダメなことが色々出てきます。「不便益」とは「不便」だから得られる益です。便利な事だけを追いかけ続けて行くと、自分で手間をかけたり工夫したりする余地が生まれません。山間の田舎生活は不便な事が都会に比べると沢山あります。例えば、坂道を上り下りしながら農作業や野菜を栽培したり、子供を遠くの学校に送り迎え。

でもその中に「不便益」があります。足腰が衰えない身体能力、通学途中の家族とのコミュニケーションでの家族愛、住む人が少ないが故（ゆえ）の助け合いの心を持って地域づくりが出来ているなど。普段不便だと感じている事が、実はプラスに働いていること「不便益」を大切にしたいものです。